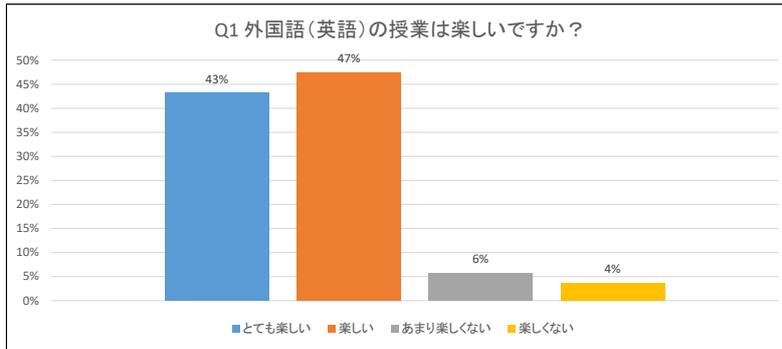
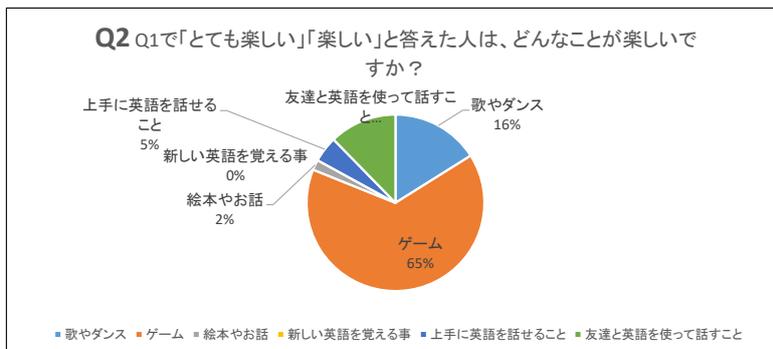


令和5年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(小川小)



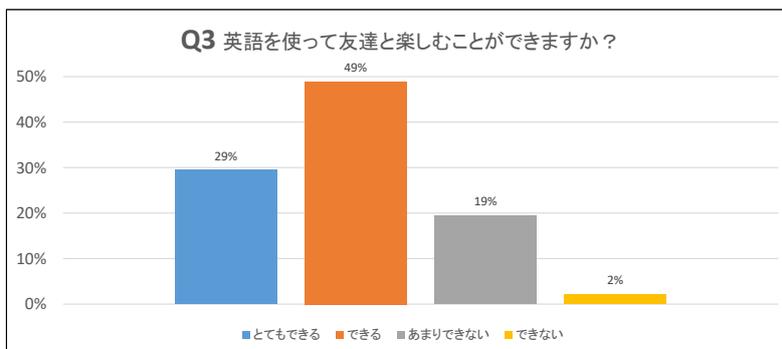
【Q1について】

90%の児童が、外国語(英語)の授業を楽しいと回答しており、昨年度よりも外国語(英語)の学習に対する意欲が向上していることが分かる。10%の児童が楽しくないと回答しているため、必要感のある場面設定を工夫するなどして、児童の意欲を高めるような活動を設定していく必要がある。



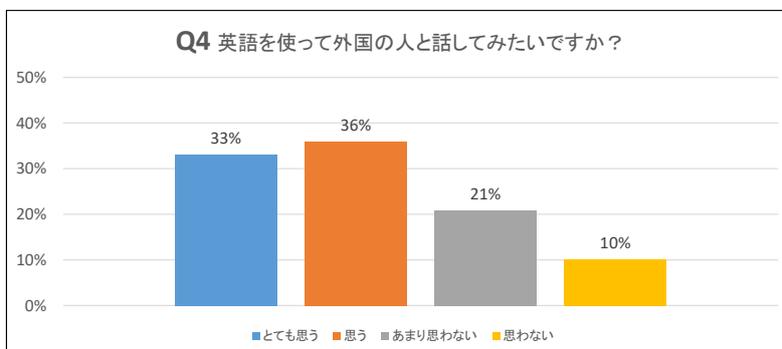
【Q2について】

80%の児童が、「歌やダンス」「ゲーム」の活動が楽しいと回答している。また、「友達と英語を使って話すこと」「上手に英語を話せること」を楽しんでいる児童が17%おり、昨年度よりもわずかながら増加している。今後も、外国語(英語)によるコミュニケーションを楽しんでいることができるような活動の工夫が必要である。



【Q3について】

英語を使って楽しむことが「とてもできる」「できる」と感じている児童が78%おり、昨年度よりも10%以上、増加している。反面、20%の児童が「あまりできない」「できない」と感じている。外国語(英語)を用いた活動において、達成感や充実感を味わわせる必要がある。一人一人が自信をもって英語を使い、楽しく活動できるような活動の工夫を図っていく。



【Q4について】

英語を使って外国の人と話してみたいと感じている児童は69%おり、昨年度よりも20%増加している。今後も、ALTとの連携を図り、英語を使うよさや必要性、コミュニケーションの楽しさや達成感等を感じることができるような活動に取り組んでいく。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

○ALTの発音にふれ、楽しんで英語を使う活動を継続していくことで、子供たちの英語への苦手意識は軽減されるのではないかと。
○学習したことをもとに、外国語(英語)のみならず、社会科や総合的な学習の時間、他教科とも関連させることで、国際理解教育の充実にもつながると思う。

【考察・今後の展望等】

学習した外国語(英語)を使ってコミュニケーションを図る場面や発表する機会を計画的に設定し、更に充実させていく必要がある。担任とALT、英語専科が連携し、児童が「話してみたい」「聞いてみたい」と積極的にコミュニケーションを図ろうとするような授業づくりを目指していく。